

大和町の近・現代



目次

口絵

発刊のことば

はじめに

凡例

南魚沼市郷土史編さん委員会 委員長 今成卓而
南魚沼市長 林 茂男

近代編

第一章 近代大和地域の発足

第一節 戊辰戦争

目次

1	会津藩支配	2
	幕領の会津藩預け替え	
	南国千人組の「世均し」一揆	
	年貢米の地払いと減免	

2	三国峠戦争	5
3	小出島戦争と長岡城攻略	7
	小出島戦争	長岡城攻略	負傷者の手当と戦没者の弔い
			新政府軍に従事した人々
4	民政局の支配と住民	12
	最寄の設置	年貢半減	大割元復活をめぐって
			百姓騒動

第二節 新しい行政制度

1	大区小区制	17
	柏崎県第四大区	新潟県第一三大区	
2	戸長役場制	20
	連合村協議会	戸長役場と議会	郡長の諮問と大崎村の意見書
3	地租改正と徴兵制	26
	土地と租税制度改革	土地面積の測量	土地の価格算定
			寺社地への調査
			徴兵制
4	学事始め	33
	魚沼郡の学制発布前夜	大和地域の学校の誕生	学校創設期の苦勞
			小学校の教育課程
			学区取締

第三節 町村制下の大和地域

1	町村制施行による町村合併 県の合併案と村々の答申	町村合併の断行	42
2	旧村と新村 新村のスタート	南藪神村の行財政 米価騰貴への対応 伝染病への対応 三用村の行財政	47
3	民権運動と国権回復同盟会 南魚沼の国会開設運動 国権回復同盟会の設立	一八八一年の政談演説会 共心社の設立 三大自由建白運動 明正会の設立	55

第四節 諸産業の興隆

1	近代産業の導入 縮から生糸・絹織物へ	金融機関 銀・銅・石油・ガス	63
2	宿駅・市と在来産業		68
3	農林業 新規開田	農談会と老農の教え 畑作物と加工品 山野の利用	72

第五節 社会生活の変化

目次

1 文明開化への対応 78

2 病と医療 80
コレラ病 疱瘡 眼病 医師と病院

3 災害 83
堤防組合から水防組合へ 火災 雪害とその他の災害

第六節 教育と文化の刷新

1 小学校教育の刷新 86

学区制の廃止と小学校の再編 小学校令の公布と町村制の施行 雪中分教場 地域の就学状況
教科内容・教科と試験 教員の職名の変遷 ヘルバルトの五段階教授法 大崎の学習結社 芹田の共心社

2 新文化の導入 104
教育勅語と小学校教育 南魚沼郡の中学校への切望 学区取締から学務委員へ 学校創立の起点

3 毘沙門信仰と八海山信仰 106
毘沙門堂の裸押合 八海山八朔と龍灯

第二章 日清・日露戦争前後の大和地域

第一節 日清・日露戦争と住民

- 1 日清戦争と村民 戦争への動員 田邊忠太郎の従軍 戦病死者の追弔 109
- 日清開戦と大和地域 軍事後援の取り組み
- 2 日露戦争の郷土兵 戦争支援の取り組み 田邊忠太郎の再従軍 追悼と顕彰 記念碑の建立 114
- 日露開戦と大和地域

第二節 村の政治と行財政

- 1 明治後期の村政 大崎村の行財政 大崎小学校同窓会の活動 藪神村政の動向 東村政の動向 123
- 一九〇一年の町村合併
- 2 明治後期の浦佐村政 学区による小学校運営 赤痢への対応 紛糾する浦佐村会 川島村政のスタート 134
- 村財政の推移
- 3 越南協和会の設立 進歩党の金城湯池 越南協和会の設立 田村寛一郎の落選 県会議員選挙の動向 143
- 総選挙の動向

第三節 諸産業の隆盛

目次

1	農事改良	151				
	地主の動向	大崎村の地主・小作関係	浦佐村地主会の結成と奨励金	東村の農事改良	藪神村の農事改良	
2	農業経営	159				
	雷土区・上村作松家	大崎の田邊家の収支	大崎菜組合	養蚕組合	養鶏など	
3	商工業と金融業	173				
	浦佐村の商工業者	大崎村の商工業者	東村の商工業者	藪神村の商工業者	工業の動向	鉱業ブーム
	雷土銀行	信用組合				

第四節 住民生活の転変

1	大災害への対応	192			
	大水害の常襲	水害予防組合の展開	火災の頻発と消防組	雪害	地震・台風
2	伝染病	202			
	赤痢の大流行	腸チフスの増加	ジフテリアなどへの感染		
3	病院問題と恙虫病	207			
	病院問題	医師問題	恙虫病と恙虫研究所		

第五節 教育と文化

- 1 小学校義務教育の浸透 213
 - 多様化した小学校教育 北部九か校連合運動会 遠足・修学旅行 体育教練と兵式体操
 - 女子の就学率の向上と子守学級 義務教育後の教育 上級学校への進学 向学心に燃える二少年の悲劇
- 2 夜学会・青年会・尚武会 223
 - 夜学会の盛行 青年会の創立 尚武会と軍人会
- 3 神社、寺院と諸宗教 229
 - 神社と神職 神道系教団 寺院 海外布教 神職仏教連合大会 修験宗 キリスト教 戦時下と宗教

第三章 第一次世界大戦から大正デモクラシーへ

第一節 村政の変化

- 1 大正期の村財政 236
 - 大崎村・藪神村の財政構造 浦佐村の財政構造 東村の財政状況
- 2 村治体制の変化 242
 - 大崎村の村治体制 大崎村の篤行者表彰 藪神村の村治体制 藪神村是の制定 東村の村治体制
 - 一九一四年の東村村議紛擾

3	大正期の浦佐村政	249
	浦佐村の村治体制	川島村政
		有給村長の就任
4	政友会勢力の伸張	254
	総選挙の動向	政友会勢力の伸張
		青木恒太郎の当選
		その後の南魚沼郡情勢
第二節 交通の隆盛		
1	上越線の延伸	262
	道路から鉄道へ	岡村貢の上越鉄道敷設運動
		「我田引鉄」の時代
		南魚沼郡と中魚沼郡の綱引き
	上越鉄道期成青年党の活躍	浦佐停車場の開業
2	県道川東線と大和地域の村々	270
	県道川東線の開設	法線決定をめぐる対立
		浦佐村の道路問題
第三節 農業と商工業		
1	農業振興	277
	大和地域の農業経営	米作の状況
		大崎村の農業経営
	地主・自作農・小作農の農業経営	畑の作物
		大崎菜
		養蚕業
		大崎村の農業振興策
		夏蚕の奨励
2	開田と副業	291
	八色原の開拓	開田計画
		副業の奨励
3	商工業の展開	295

浦佐の市の衰退 鉄道開通 大崎菜と鉄道開通 押合大祭と鉄道の開通

第四節 村の大正デモクラシー

1	新教育・実業教育	299
	自由教育と綴り方教育
	学芸会と創作劇
	実業教育
	活発になった教員研修会
	多様化する学校体育
2	八海自由大学	311
	八海自由大学の開講
	渡辺泰亮と八海自由大学
	童心芸術・童心教育・童話
	桑原亮太郎の童話教育論と創作活動
3	青年会活動	319
	大和地域青年会の動向
	南魚沼郡青年会の設置
	区青年会の活動
	青年会の文芸活動
	青年会の論評活動
4	村民生活の変化	335
	変わる村民生活
	通信手段の変遷
	電灯がともる
	農村住宅の実情
	雪国対応住宅の登場

第四章 農業恐慌から十五年戦争へ

第一節 恐慌前夜の農村と村政

1	米作・養蚕・出稼ぎ	346
	米作 農会の取り組み 養蚕 出稼ぎ 大崎村の出稼ぎ状況	
2	村政の転換	351
	選挙権の拡大 普通選挙法による村会議員選挙 村会の役割 村民の代表者として	
3	区有林統一と小学校統合	355
	区有林野の統一 大崎村の区有林野 大崎村の区有林野の統一 浦佐村の区有林野の統一 大崎村の小学校統合問題 統合をめぐる	
第二節 恐慌期の村		
1	農業恐慌の実態	367
	米価と繭価の下落 米の収穫量と価格 繭価の下落 経済不況に関する県の調査 税の未納問題	
2	時局匡救事業	375
	救農土木事業 浦佐村の農村振興土木事業 大崎村・藪神村の農村振興土木事業	
3	経済更生運動	378
	自力更生 経済更生運動 大崎村の更生策樹立 大崎村の実行状況 浦佐村の実行状況	

浦佐村五箇の小島家農業経営	
一九三四年の凶作と小作争議	385
一九三四年の凶作	
米の減収	
他の農作物	
籾価の暴落	
飯米窮乏農家への政府払下げ米	
小作争議	
全農浦佐支部の結成	

第三節 恐慌下の教育と文化

1 実業補習学校と青年訓練所	393
実業補習学校	
赤石農業補習学校	
浦佐実業補習学校	
浦佐農商学校	
青年訓練所	
赤石青年訓練所	
教練の状況	
浦佐青年訓練所	
紡績工場への出稼ぎ	
東洋紡績神崎工場	
工場での労働	
寮での生活	
青年学校	
2 緊縮財政と小学校	412
東村の三用・赤石両小学校の増改築問題	
小学校校舎の増改築へ	
村民からの寄附	
小学校竣工式	
村の財政と小学校経費	
3 文化と宗教	418
郷土誌	
彫刻	
文芸	
戦争の影響を受けて	
スキー	
毘沙門堂の維持と再建	

第四節 戦時体制への呼応

1 応召と慰問	425
---------	-----

2	村常会と部落常会	431
	国民精神総動員運動	
	貯蓄奨励	
	国民精神総動員運動の展開	
	「東村報」の発行	
	東村の部落常会	
3	食糧増産運動	437
	農繁期託児所の開設	
	耕種改善基準の設定	
	農業生産統制策	
	八色原の開墾	
	戦時下の小作問題	
	適正経営農家	
	標準農村の建設	
第五節 戦時下の村民生活		
1	勤労奉仕と労務動員	447
	勤労奉仕	
	徴用	
	女子挺身隊	
2	配給と供出	450
	米の配給	
	米の供出	
	統制と大崎菜	
	綿製品などの配給	
3	国民学校の発足	454
	国民学校令	
	児童の勤労働員	
4	翼賛国民運動	456
	大政翼賛会と村常会	
	浦佐村の村常会	
	部落常会指導者講習会	
	大政翼賛会と生活新体制	
	浦佐村の生活刷新	
	鉄鋼製品の回収	
	対米開戦後	
	東村の部落常会	
	国民貯蓄組合	
	満州移民の送出	
	満蒙開拓青少年義勇軍	
	満州分村計画	
	開拓団の壊滅	

現代編

第一章 敗戦後の村々

第一節 敗戦後の村々のくらし

1 敗戦と村民

敗戦の日々 復員と戦死 人口の推移 選挙の実施

472

2 食糧不足と供出

豪雪と大凶作 大和地域の対策 配給と供出のリンク制導入 その後の供米成績

487

3 鉱工業と商業

大倉産業の操業 不二越鉱業の操業 西山の鉱山開発 商業の復興

493

4 伝染病と災害対策

伝染病 災害の多発 災害対策の着手 治山工事の着手

第二節 農地改革と開田事業

1 農地改革の実情

大和地域の農地改革の着手 第二次農地改革 農業会から農業協同組合へ

500

2 八色原開拓事業

506

目次

3	西部開田事業	八色原の原風景	開墾事業の黎明	入植	それぞれの入植者	開拓の日々	515
	農商務省の計画	西部耕地整理組合から中央土地改良区の発足へ	開田工事の完成	第二次西部開田計画			
	灌漑排水事業の実施						
第三節 復興する村々							
1	村々の復興	大崎村の復興	藪神村の復興	浦佐村の復興	東村の復興		519
2	生活基盤の復興	上越線浦佐駅の活性化	村々の道路	通信	生産と生活	戦後初期の出稼ぎ	532
3	社会集団の復興	青年集団の復興と新生	表現活動の継承と新展開	生活の記録	希望のうたごえ	うたごえ運動のその後	537

第四節 戦後教育と文化活動

1	新しい教育体制の整備	戦後混乱期の学校	新制中学校の誕生と新教育への模索	六日町高等学校定時制浦佐分校	548
2	戦後の食糧難と子ども	食糧難と子どもたちの体位	食糧難と寄生虫など病気の流行	学校給食の始まりと完全給食への移行	551

3	新教育への意気込み	555
	大崎中学校の理科研究	
	学校林の植樹と管理	
	田植え休み、稲刈り休み	
	P T Aの発足	
4	社会団体と公民館	558
	五箇青年会の活動	
	東村青年会の文芸部活動	
	辻又青年会の活動	
	生活記録文集「夜なべのうた」の歩み	
	公民館・社会教育施設の整備	
第二章 高度経済成長期の大和町		
第一節 大和村・大和町の誕生		
1	合併協議	565
	百花斉放の合併論	
	四村合併への道	
	新町村の名称	
2	大和村の発足	569
	大和村の始動	
	大和村の将来構想	
	大和村の予算執行	
	観光事業の着手	
	補助事業の実施	
3	高度経済成長下の大和町	575
	大和町政の出発	
	町財政の推移	
	諸施設の整備	
	保育所の設置	
	簡易水道の敷設	
4	道路整備と上越線複線化	585
	国道一七号線の開通	
	国道二九一号と県道	
	後山線と昭和の青之洞門	
	上越線複線化と八色駅の設置	

第二節 開発と基盤整備

目次	
1 浦佐スキー場	594

浦佐スキー場構想 浦佐スキー場の開発 浦佐スキー場の盛況 平沢文雄と浦佐スキー学校

浦佐スキー学校とウエーデルン 一九六六年の地滑り 浦佐スキー場の終焉

2 町営八海山麓スキー場	606
--------------	-----

町営八海山麓スキー場の胎動 絶えない身売り話 町営スキー場として 水無溪谷の開発

第三節 農村の変容

1 大災害と対策	614
----------	-----

大水害・台風と魚野川改修 豪雪 克雪

2 東部開田事業	621
----------	-----

水無川両岸開田工事 東部開田事業の着工へ 完工 水平畑問題 大規模農村工業団地構想

3 基本法農政の影響	629
------------	-----

基本法農政 農業の生産性と所得 畜産の推移

4 変わる出稼ぎ	638
----------	-----

出稼ぎ動向の変化 藪神地区 大和町の出稼ぎ状況 出稼ぎの減少

第四節 教育と文化の発展

1	新教育の試み	645
	県立高等学校の誘致に向けて	
	学園都市の町づくりへの動き	
2	大和町の複式教育と五箇小学校の統合	647
	複式教育	
	五箇小学校の統合	
3	中学校統合問題	648
	中学校の統合検討	
	賛否分かれる中での統合議決	
	再燃する統合反対運動	
	完全統合へ	
4	毘沙門堂裸押合大祭を担う人々	654
	祭事	
	講中	
	大祭委員会	
	多聞青年団	
	後世へ継承	
5	火渡りと舞楽	656
	八海山観光と火渡大祭	
	神楽舞と翁式三番	

第三章 高速交通体系と福祉・学園都市

第一節 上越新幹線と関越自動車道

1	上越新幹線停車駅問題	658
	大平東一郎町政の開始	
	減り続ける人口	
	大和町総合開発計画（一九七一年版）	
	上越新幹線浦佐駅の決定	

一九六九年から一九八四年の町財政	道路網の整備	671					
2 商工業・観光業の発展を目指して	産業構造の変化	工場誘致の努力	苦闘する商業	大和町商工会	温泉開発のあゆみ	681	
3 五箇開発計画と浦佐国際スキー場	五箇開発と浦佐国際スキー場のオープン	ゴルフ場反対運動とスキー場の閉鎖	685				
4 上越新幹線浦佐駅と関越自動車道の開通	大和町総合開発計画(一九七三年版)	新浦佐駅の建設と駅前整備事業	浦佐駅東地域の開発	上越新幹線の開業と田中角栄像	バブル景気と浦佐駅東地域	関越自動車道の開通	693
第二節 住民生活と福祉	1 生活基盤整備と住民活動	関新一町政の登場	大和町コミュニティセンターさわらび	まほろば連邦	大崎地区の地域活動	699	
2 地域医療の充実	救神ホールまほろば	童夢	大和町診療所の発足	地域医療のシステムづくり	大和医療福祉センターの開業	健康やまとびあ	706
3 農業基盤整備	予防・治療・福祉の充実	706					
コシヒカリのブランド化	畜産と畑作	八色スイカ	苦節の農産加工業	模索する営農組織	706		

第三節 学園都市の創成

- 1 国際大学 国際大学設立に向けた大和町の動き 国際大学設立への財界側の動き 713
- 2 北里大学保健衛生専門学院 財界の目指した国際大学 学園のまちづくりへ 国際大学の開学 その後の国際大学 719
- 3 国際情報高校の設立 北里学園の意向 大和町の誘致活動 地元の反応、下宿組合の発足 北里保健衛生専門学院の開校 721
- 4 児童の減少と学校統合 県立高校の誘致の取り組み 高校誘致期成同盟会の設立 国際情報高等学校の誕生 724
- 迂又小学校の閉校と後山小学校への併合 後山小学校の新築 726

第四節 観光開発の模索

- 1 高速交通化時代の観光 奥只見・尾瀬観光への期待 天王町地区の諸施設 稲刈り体験ツアー・マラソン大会 726
- 2 八色の森公園と池田記念美術館 ワイン専用ぶどう栽培に着手 越後ワイナリーの設立 米山定夫町政 733
- 奥只見レクリエーション都市公園構想 大和町のレク都市への取り組み 池田記念美術館 733

第五節 新時代の大和町

1	生業の発展	738
	模索する農業	
	生産組織	
	集落の機能	
	活かす、生み出す	
2	ヤマトピア	747
	ゆきぐにやまとびあ	
	高齢化社会に向き合う	
	文化・スポーツ活動の盛行	
	国際交流に向き合う	
3	南魚沼市へ	758
	六日町地域広域市町村圏計画	
	合併への道	
	新市まちづくり計画	
	南魚沼市の発足	
	主な参考・引用文献	765
	執筆者一覧	778
	郷土史編さん関係者名簿	780
	資料所蔵者・協力者一覧	785
	あとがき	
	掲載写真の出典一覧	

目次

付1 参考資料

付2 大和地域管内図